

## ライム病と回帰熱の比較

疾病名	ライム病（四類感染症）	回帰熱（四類感染症）
国内で確認されている病原体	スピロヘータ科ボレリア属菌 <i>Borrelia garinii</i> , <i>B. afzelii</i> など	スピロヘータ科ボレリア属菌 現在のところ、 <u><i>Borrelia miyamotoi</i> のみ</u> (※)
感染経路	主としてマダニによる咬傷（ヒト-ヒト感染はなし） （回帰熱については、シラミ媒介性のももある）	
主な媒介マダニ	シュルツェマダニ（病原体保有率：20～30%程度）	シュルツェマダニ（病原体保有率：1～5%程度）
国内発生届出数	年間 10 件程度 （死亡例は 2007 年に 1 件報告あり）	感染症法施行後の届出無し（輸入症例 2 例を除く）
国内患者発生地域	シュルツェマダニの生息地域に一致（主に中部以北の高地、寒冷地）。北海道、長野県など。	国立感染症研究所が保存していた血清約 800 検体を検査したところ、 <u>北海道の 2 検体から <i>B. miyamotoi</i> を検出。</u>
潜伏期間	（マダニ咬傷から）3～32 日（平均 7～10 日）	（マダニ咬傷から）12～16 日（平均 15 日）
主症状	<ul style="list-style-type: none"> <li>マダニ刺咬部を中心とした遊走性紅斑が特徴的</li> <li>発熱（回帰熱ほどではない）、頭痛、関節痛、筋肉痛などインフルエンザ様症状を伴うこともある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発熱（39℃以上）、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身の倦怠感など</li> <li>回帰熱（3～6 日の発熱期と 7～10 日の無熱期の反復）</li> <li><i>B. miyamotoi</i> による死亡例の報告は無い</li> </ul>
確定診断検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>血清中の抗ボレリア抗体の検出：可</li> <li>血液検体を用いた PCR：不適</li> <li>皮膚生検による病原体の分離・同定：可</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>血清中の抗ボレリア抗体の検出：可</li> <li>有症期の血液検体を用いた PCR：可</li> </ul>
	*抗ボレリア抗体の検出検査のみでは、ライム病と回帰熱の鑑別不能	
治療・予防	テトラサイクリン系の抗菌薬（ミノサイクリン、ドキシサイクリンなど）の投与が有効	

※*Borrelia miyamotoi* は、1995 年に我が国で新種として発見された。当時、その病原性は不明であったが、2011 年にロシア、また、2013 年に米国において、回帰熱の病原体であることが確認されている。